地域連携推進会議　議事録

１．基本情報

事業所名	もみじホーム
開催日	令和　８年　７月　５日（日）
開催時間	午前 10 時 00 分 ～ 11 時 00 分
開催場所	メイプル　作業室
出席者（立場や所属）	地域の代表、保護者の代表、利用者代表、サビ管、管理者

２．会議の目的

サービスの質・透明性の確保

地域と施設等の連携促進

利用者の権利擁護

３．議題と概要及び質疑応答

■ サービスの質・透明性の確保

・グループホームの状況について

施設の概要について

6 か所の GH を運営　高倉の家（10 名）いこいの家（6 名）（法人所有）

新町の家（5 名）（法人所有）

平野の家（6 名）　西町の家（6 名）　鳳の家（6 名）（賃貸住宅）

・入所者の状況

定員 39 名　現在 37 名の利用　　20 歳～75 歳　　平均年齢 48 歳

18 名が一般就労、19 名が福祉就労（就労継続支援 A 型 B 型）

主にたつの市内の事業所へ勤務（姫路市の A 型事業所や新宮町内の素麺事業所など）

知的障害（療育手帳）の利用者が主だが、精神疾患（てんかん等）の利用者も在籍。

・職員の状況

管理者１名、サービス管理責任者２名（兼務）生活支援員６名（兼務）世話人 14 名

嘱託医師１名で運営

看護師２名　～　他事業所の所属であるが、「医療連携」として、もみじホームの利用者の健康管理、通院指示、医療相談などを行う。

・会議に向けて施設見学を実施（5/10）

入所者の日常生活の様子を実際に見て頂く

月～金　各事業所へ出勤（6 時頃から順次出勤　～18 時頃までに帰宅）

（シフト表により土日祝も出勤の利用者も数名あり）

土日祝　日用品、食料品の買い物、外出、帰省の状況など説明。

・BCP（業務継続計画）の進捗状況

感染症、災害時の BCP（事業継続計画）を策定。

新型コロナ感染時には感染症 BCP に沿って事業を縮小し、利用者の感染防止に努めながら事業の継続を行った。

災害時 BCP については、災害時用（土砂、水害、地震等）の避難訓練等を実施し、BCP の更新を行っている。

※質疑応答

地域の代表より　⇒　利用者の生活環境、住まいなど思ったより恵まれていると感じた。職員の方が支援されているのだろうが、部屋などいい環境で過ごされていると感じた。

保護者の代表より⇒　利用者の部屋を見させてもらって、みんな個性的で、自分の趣味を楽しんで私生活が充実しているように感じる

地域の代表より　⇒　通勤について質問。電車通勤の人がいるが、定期などはどのように購入しているのか？トラブルなどはないか？

ICOKA の定期を駅で購入して通勤している。トラブルは少ないが、IC カードのタッチが不十分で乗車時にエラー表示が出、姫路駅まで手続きに行くケースが数件あった事を報告する。

利用者代表より　⇒　自身の通勤状況について説明。姫路市内のおしぼり工場へ月～金まで通勤している。最寄駅からは会社のバスで送迎してもらっている。月に 1 回パラスポーツのボッチャの練習に参加している。又、姫路市内での買い物が楽しみである。

利用者代表より　⇒　隣接の障害者支援施設で清掃業務をしている。最近は土日にバスを利用して新宮駅前で昼食を食べたり、買い物をしたりする事が楽しみになっている。又、近日中にスマートホンを購入する予定があり、それも楽しみである。

■地域・施設等の連携

・地域との施設等の携について

地域行事への参加

地域の清掃活動、とんど、手話サークルへの参加など。又、市内で開催される夏祭り、イベント等に参加、地域住民との交流を深めている。

地元の自転車店

利用者の自転車の購入、修理の際に利用。修理後の自転車の運搬等配慮を頂いている。

地域のスーパー、コンビニなど

利用者の日用品、食料品の購入等に常に利用。商品の選択や支払いの際に配慮を頂いている。

・近隣住民からの苦情

現在は特に苦情はないが、集合住宅に生活する利用者もおり、近隣住民への配慮については常に声掛けをしている。

※質疑応答

地域の代表者より　⇒　もみじホームのほとんどの利用者が自転車の購入、修理の関係で交流があり、直接自転車を持ち込んだり、連絡をくれる子もいる。30 年近い付き合いの人もいるので、それぞれの性格も分かっている。性格はそれぞれだが、いい子ばかり。

■利用者の権利擁護

・虐待防止対策、事故、ヒヤリ・ハットの報告

虐待防止対策として、毎月、職員会議にて検討を行っている。

利用者に対する接し方、支援方法について、身体的・性的・心理的・経済的虐待・放置、放任など虐待にあたる行為、支援がないか常に確認している。

事故報告　　昨年度　1件　自転車で車両と接触事故

ヒヤリハット　昨年度　4件　服薬ミス 2 件

通勤中の危険運転、他者との接触などなど

・職員への研修

毎年、利用者の権利擁護について外部研修を受講、研修報告を行っている。

利用者主体、利用者中心の支援　（利用者が自分らしく生活する事を支援する）

意思決定支援の在り方等　（どんな人にも意思があり、自分の人生を決める権利がある）。

・利用者自治会（利用者主体の生活）

定期的に利用者自治会を開催（年６回程度）

各 GH での生活上の規則についての話し合い、施設への要望事項の取りまとめを行う。

一泊旅行など、利用者自治会活動の計画、実施など、利用者の主体的な生活に向けての取り組みを支援している。

・共同生活援助における運営や支援に関するガイドライン

管理者より　⇒　　「自己チェックシート」についての報告を行う。

※質疑応答

保護者代表より　⇒　「自己チェックシート」について、細かい項目について説明を受けて、きちんと運営されている事が良く分かり安心しました。今後も引き続きよろしくお願いします。

４．今後に向けた対応・検討事項

地域の代表者より　⇒　自転車を利用する人が多いので、交通ルールや事故など十分に注意して通勤して欲しい。４月から規則も厳しくなっているので違反のないように気を付けて欲しい。又、自転車での重大事故も増えているので、自転車保険の加入なども忘れないようにして欲しい。

５．その他・次回開催予定

・次回開催予定：令和　９年　７月頃を予定

６．個人情報への配慮

・本議事録は、個人が特定されない形で作成されています。